

都城工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	社会学
科目基礎情報						
科目番号	0033		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	電気情報工学科		対象学年	4		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	なし					
担当教員	藤永 伸					
到達目標						
1 社会学で扱う内容を知り、近隣分野との相違点や類似点を知ることが出来る。2、言語の構造や機能を理解し、具体的な例について考えることができる。3、火の使用について、その機能や意義を具体的に考えることができる。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価到達目標項目 1		社会学の対象領域を十分に理解し、近隣分野との相違点や類似点についても明確な理解を持つ。	社会学の対象領域を理解し、近隣分野との相違点や類似点についても理解を持つ	社会学の対象領域を大まかに理解し、近隣分野との相違点や類似点についても大まかな理解を持つ		
評価到達目標項目2		言語の構造や機能について十分に理解し、具体的な例を多く上げることができ明確な説明ができる	言語の構造や機能について理解し、具体的な例を上げることができ説明ができる	言語の構造や機能について大まかに理解し、具体的な例を上げることができ大まかな説明ができる		
評価到達目標項目3		火の使用に関し、機能や意義について十分に理解し、具体的な例を多く上げることができ明確な説明ができる	火の利用に関し、機能や構造を理解し、具体的な例を上げることができ明確な説明ができる	火の利用に関し、機能や構造を大まかに理解し、具体的な例を上げることができ、大まかな説明ができる1、社会学がどのような学問であるか、人間の特徴を考え、他の学問分野との比較を通じて概観する。		
学科の到達目標項目との関係						
JABEE (a) JABEE C1 JABEE C2						
教育方法等						
概要	1、社会学がどのような学問であるか、人間の特徴を考え、他の学問分野との比較を通じて概観する。2、人間に特徴的な言語と火の使用に重点を置いて具体的に検討する。					
授業の進め方・方法	スクリーンと板書を併用し、質問を交える。					
注意点	物事を批判的に見る視点を養うこと。					
ポートフォリオ						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	社会学の対象 1	社会学の対象をしる		
		2週	社会学の対象2	社会学の対象をしる		
		3週	ウエーバーの社会学 1	ウエーバーの思想の内容を知る		
		4週	ウエーバーの社会学2	ウエーバーの思想の内容を知る		
		5週	共同社会と利益社会1	共同社会に付いて知る		
		6週	共同社会と利益社会2	利益社会に付いて知る		
		7週	近隣分野との関連1	近隣分野との関連を知る		
		8週	近隣分野との関連2	近隣分野との関連を知る		
	2ndQ	9週	人間と動物の違い	人間と動物の違いを知る		
		10週	文化の諸相	文化の諸相を知る		
		11週	文化理論の理解	文化理論の理解を知る		
		12週	社会構造の指標	社会構造の指標を知る		
		13週	人間の進化	人間の進化を知る		
		14週	社会の多様性	社会の多様性を知る		
		15週	まとめ 1	社会学の全体像を掴む		
		16週	まとめ 2	社会学の全体像を掴む		
後期	3rdQ	1週	言語の構造概論	言語の構造を知る		
		2週	音韻と音素	音韻と音素を知る		
		3週	言語の機能概論	言語の機能を知る		
		4週	方言の諸相	方言の諸相を知る		
		5週	ソシユールの言語論	ソシユールの言語論を知る		
		6週	集団と言語	集団と言語を知る		
		7週	職域方言	職域方言を知る		
		8週	まとめ	言語の概要を知る		
	4thQ	9週	火の使用の歴史	火の使用の歴史を知る		
		10週	加工手段としての火1	加工手段としての火を知る		
		11週	加工手段としての火2	加工手段としての火を知る		
		12週	武器としての火1	武器としての火を知る		
		13週	武器としての火2	武器としての火を知る		
		14週	儀礼手段としての火1	儀礼手段としての火を知る		

		15週	儀礼手段としての火2	儀礼手段としての火を知る
		16週	まとめ	火の意義を知る

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地歴	産業活動（農牧業、水産業、鉱工業、商業・サービス業等）などの人間活動の歴史的発展過程または現在の地域的特性、産業などの発展が社会に及ぼした影響について理解できる。	3	
				人間活動と自然環境との関わりや、産業の発展が自然環境に及ぼした影響について、地理的または歴史的観観点から理解できる。	3	前1
				社会や自然環境に調和した産業発展に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	3	
				日本を含む世界の様々な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的または地理的観点から理解できる。	2	
				国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的または歴史的観点から理解できる。	2	
				文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。	2	
			公民	諸思想や諸宗教において、好ましい社会と人間のかかわり方についてどのように考えられてきたかを理解できる。	1	
	工学基礎	グローバルゼーション・異文化多文化理解	グローバルゼーション・異文化多文化理解	世界の歴史、交通・通信の発達から生じる地域間の経済、文化、政治、社会問題を理解し、技術者として、それぞれの国や地域の持続的発展を視野においた、経済的、社会的、環境的な進歩に貢献する資質を持ち、将来技術者の役割、責任と行動について考えることができる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	100	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0